

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価計画

<p>学校名</p>	<p>小城市立砥川小学校</p>			
<p>1 前年度 評価結果の概要</p>	<p>重点目標『今日が楽しく、明日が待ち遠しく思える学校』について、「学校が楽しい」と回答した児童89%、「楽しく学校に行っている」と回答した保護者91%となり達成した。また「仕事にやりがい(達成感)を感じる」職員85%以上に対して、「仕事にやりがいを感じる」と回答した職員83%、「校務分掌等を通じて学校運営に関与している」と回答した職員100%、「強みを活かして参画している」と回答した職員75%となり、概ね達成した。 今年度は、そのことを土台として、人権教育の視点を教育活動全体に取り入れ、「大切な自分・大切なみんな」を合い言葉に、自己肯定感や自己有用感の向上を目指していく。</p>			
<p>2 学校教育目標</p>	<p>夢と志をもち、自ら学び、共によりよく生きようとする砥川っ子の育成 「勤儉力行」 ～ 大切な自分 大切なみんな ～</p>			
<p>3 本年度の重点目標</p>	<p>～自他の生命や人権を尊重する心、自己肯定感・自己有用感の育成～ 人権教育の視点をもちた教育活動全体を通して、自分のよさや可能性を認識させると共に、あらゆる他者を尊重する態度を育てる。 <教育活動推進のための3つの重点> I 教職員の協働意識・チーム支援体制づくり II 「学力向上に向けた取組」「発達支持的生徒指導」 III 子どもの困り感に寄り添う支援、外部機関・地域との連携 ※全体成果指標「自分もみんなも大切に行動できている85%以上」「自分にはよいところがある85%以上」「自分は誰かの役に立っている</p>			
<p>4 重点取組内容・成果指標</p>	<p>主な担当者</p>			
<p>(1) 共通評価項目</p>				
<p>重点取組</p>	<p>重点取組</p>			<p>具体的な取組</p>
<p>●学力の向上</p>	<p>○児童の基本的な学習習慣の育成 ○校内研究の推進による授業力向上 ○一人一台端末の有効活用</p>	<p>○学習規律と家庭学習に関するアンケートで肯定的な回答した児童80%以上 ○校内研究に関するアンケートで肯定的な回答した児童80%以上 ○「一人一台端末は、学習に役立っている」と回答した児童80%以上</p>	<p>・「立腰」「か・つ・お」等、学習規律の徹底と、家庭学習の習慣化への取組。 ・人権が尊重される授業作り。 ・学びのUD化、話し合い活動の工夫。 ・意欲を育む指導と評価の充実を図る。 ・一人一台端末の使用法を職員間で共有し、活用力を高め合う。</p>	<p>・ゆたかな学び部 (学力向上Co)</p>
<p>●心の教育</p>	<p>●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動</p>	<p>○「人権意識を育む環境作り」に関する掲示を計画的に行う。 ○学校評価アンケートにおいて、思いやりのある行動や言動ができていると答える児童が85%以上。</p>	<p>・人権意識を育む環境作り。 ・心をつなぐ活動づくり(年間を通した人権教室・人権集会等の計画的な実施)による人権意識の涵養。 ・道徳教育やいのちの学習を通して、自他の生命を尊重する心を育てる。</p>	<p>・すこやかな体部 (環境作り) ・やさしい心部 (心をつなぐ活動)</p>
<p>●健康・体づくり</p>	<p>②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」</p>	<p>②「早寝・早起き・朝ご飯をしている」児童80%以上 ③「健康に良い食事をしている」児童80%以上</p>	<p>・家庭と協力し「早寝・早起き・朝ご飯」の取組の徹底を図る。 ・給食センター等と連携し、食の大切さや世界の状況を理解させる指導を行う。</p>	<p>・すこやかな体部 (食育等)</p>
<p>●業務改善・教職員の働き方改革の推進</p>	<p>●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減</p>	<p>●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上</p>	<p>・行事や会議を効率的で効果的に凝縮し、子どもと向き合う時間を確保する。 ・全職員で業務改善策を検討しボトムアップ方式での取組を推進していく。 ・定時退勤日(毎週金曜日)の設定 ・業務に注力する内容の軽重を考慮することにより、個人の勤務超過時間を平均40時間以内にするると共に、年休取得日数1人あたり14日以上を目指す。</p>	<p>・教頭</p>
<p>●特別支援教育の充実</p>	<p>○特別支援教育に対する教職員の知識・理解の更新、向上</p>	<p>○学校評価アンケートにおいて、特別支援に関する専門性が向上したという問いに肯定的な回答をする教員80%以上</p>	<p>・講師を招聘した研修を行い、特別支援教育について教員の専門性を高める。 ・個別の指導計画及び特別な教育課程の詳細な立案により、支援を要する児童への個に応じた対応を徹底する。 ・全職員で児童を育てるために児童の情報共有と指導の方向性の確認を行う。 ・全学級でのコグトレ活用。</p>	<p>・特別支援教育Co</p>
<p>(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目</p>				
<p>重点取組</p>	<p>重点取組</p>			<p>具体的な取組</p>
<p>○地域との連携</p>	<p>○地域との連携による互恵性のある教育活動の創造</p>	<p>○「地域の方と一緒に活動は楽しい」に肯定的な回答をする児童85%以上。 ○「地域の教育的資源や人材を活用した」に肯定的な回答をする職員85%以上。</p>	<p>・コミュニティスクールを核とした、児童が地域の人・もの・ことに触れ安心安全で豊かな学習環境作りの推進。 ・児童が地域の方に感謝する機会をその都度設けたり、地域の行事参加等、地域に出かけて活動したりすることで、学校も地域も元気になる方途を探る。</p>	<p>・教頭</p>
<p>○他校との交流</p>	<p>○南九州市立宮脇小学校とのオンライン等の交流</p>	<p>○「宮脇小学校と交流することで、宮脇小学校のことや石工の里、平和について学びを深めることができた」と回答する児童80%以上</p>	<p>・宮脇小学校との交流活動を通して、児童同士の関わりを深めたり、それぞれの地域の歴史や文化、特徴などを発信し合ったりすることで、自他を見つめ、ふるさと砥川のへの誇りと愛着を深める。</p>	<p>・4年6年担任 ・教頭</p>